

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：吉田 淳

事務局：愛知教育大学理科教育講座 内

URL：<http://www.jsse.jp>

2010.4.15

NO.197

科学教育研究レター



目 次

- | | |
|---------------------------------|---|
| ■ 理事会だより
第239回理事会報告（案）……………2 | ■ 研究会・支部だより
平成21年度 第4回研究会・
北陸・甲信越支部会のご案内……………10 |
| ■ 年会
第34回年会開催案内（第4次）……………4 | 平成21年度 第6回研究会・
東海支部会のご案内……………10 |
| ■ 若手の会
若手の会開催案内……………9 | 平成21年度 第3回研究会・
南関東支部会 開催報告……………11 |
| | ■ 編集理事会だより……………11 |
| | ■ 広報委員会からのお知らせ……………10 |

日本科学教育学会第 239 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日時 2010年3月13日（土）14:00～17:00
会場 コクヨ(株) 品川本館 11階 1101号室
出席者 会長 吉田
理事 飯島、岩崎、大高、荻原、小倉、熊野、
佐伯、坂谷内、丹沢、土田、中山、
東原、藤岡、美馬、吉岡
監事 松原
年会企画委員長 高藤
顧問 大木、北原

1. 議事要録（案）の承認

○第 238 回議事要録（案）を承認した。

2. 第 239 回理事会までの電子会議による審議事項

○入会希望者（～3月1日）の電子会議審査について

事務局からの発議により、11月4日までに入会を希望した6名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（11月20日）。

事務局からの発議により、12月16日までに入会を希望した6名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（1月6日）。

事務局からの発議により、1月7日までに入会を希望した4名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（1月20日）。

事務局からの発議により、2月5日までに入会を希望した6名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（2月22日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○日本学術会議科学者委員会学術誌問題検討分科会からの依頼による「学術誌に関するアンケート」に回答した（1月15日）。

○2012年度以降の年会開催校候補の依頼について、年会開催候補依頼書を各支部長に送付した（3月8日）。

○中西印刷株式会社との2009年度事務委託契約書及び印刷委託契約書の手続きを完了した（3月9日）。

2) 経理・会員

○第33回年会（京都大会）から収支決算報告書が提出された。

○名誉会員中山和彦先生の告別式に本学会から花輪と弔電を出した（1月14日）。

○2009年度中間決算を行った（2月20日）。

○住所不明者の確認

○入会者について

事務局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された19名が正式に入会となった（3月1日）。

3) 機関誌編集

○機関誌編集状況について報告された。

・新規投稿論文（2010. 1. 29～2010. 3. 3）：6篇（和文5篇、英文1篇）

・査読中論文（3月3日現在）：23篇（5篇：1回目、5篇：再投稿待ち、5篇：2回目、

- 1 篇：査読員選定中、1 篇：担当編集委員による総合判定中（1 回目）、6 篇：担当編集委員による総合判定中（2 回目）
- ・掲載決定論文（3 月 3 日現在）：11 篇（研究論文 10 篇、プラザ 1 篇（34- 1：5 篇、34- 2：6 篇）
 - 34 卷 2 号の特集の進捗状況について報告された。
- 4) 年会企画
- 第 34 回年会（広島大会）の準備状況について報告された。
 - 第 35 回年会開催校の選定状況について 1 校に絞って交渉中と報告された。
- 5) 研究会
- 第 3 回研究会について報告された。
- 6) 学術交流
- 教科「理科」関連学会協議会（CSERS）第 14 回シンポジウム「新高等学校学習指導要領理科を实践する上での課題」について報告された。
- 7) 学会賞・国際
- レター 196 号に「2010 年度学会賞候補者の募集」を掲載した。
 - 学会賞選考委員会を第 240 回理事会の前に開催することとした。
 - 国際交流委員会では、本年の年会での企画セッションは設けないこととした。
- 8) 広報
- 9) 選挙管理委員会
- 役員選挙の会員推薦候補者について報告された。
- 10) その他
4. 協議事項
- 1) 退会希望者等について
- 退会希望者 7 名の承認をした。
 - *現在会員数 1,287 名 年度末退会者を含む（2010 年 3 月 1 日付け）。
 - （正会員 1,199 名、学生会員 74 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名、名誉会員 10 名）
 - 除籍対象者について
- 2) 名誉会員について
- 名誉会員規定等について継続審議となった。
- 3) 第 34 回年会について
- 年会テーマサブタイトル及び趣旨について提案され、継続審議となった。
 - 年会企画シンポジウムについての提案が承認され、実現に向けて関係者で調整を行なうこととなった。
- 4) ホスティング契約について
- 学会ホームページのサーバ管理についてのホスティング契約を承認した。
- 5) 次年度以降、研究会 HP 管理者（幹事）を任用することが承認された。
- 6) 著作権規定等の改訂について
- 機関別リポジトリへの対応など、改訂の方向性について承認され、継続審議となった。
- 7) 役員選挙について
- 理事候補者・監事候補者について検討し、決定した。
- 8) その他
- 研究報告誌について表紙に支部大会名を冠しないこととした。

次回理事会予定

第 240 回：2010 年 6 月 19 日（土）14 時から 17 時 場所未定

第34回年会 開催案内（第4次）

1. 年会テーマ：次世代の科学力を育てる（現在、サブタイトルを検討中です）

2. 日程：2010年9月11日（土）～12日（日）

※ 9月10日（金）には各種委員会・会合等が実施される予定です。

第34回年回は、第33回年回と同様に、2日間の日程で実施します。大まかなタイムテーブルは表のように計画しています。今後、調整により変更になる場合があることをご承知おきください。

第34回年会 広島大会 タイムテーブル(案) (2010-04-03版)
(於:広島大学東広島キャンパス、2010年9月11日(土)～12日(日))

	前日 9/10(金)	1日目 9/11(土)	2日目 9/12(日)	
08:30				08:30
09:00		受付	受付	09:00
09:30				09:30
10:00		一般研究発表 学会企画課題研究発表 自主企画課題研究発表 (2時間)	一般研究発表 学会企画課題研究 発表 自主企画課題研究 発表 (2時間)	10:00
10:30			年会実行委員会企 画課題研究 (2時間)	10:30
11:00				11:00
11:30			休憩(15分)	11:30
12:00		総会／表彰(昼食をとりながら)・休 憩 (1.5時間)	招待講演 「科学教育研究セミナー」 (45分)	12:00
12:30			休憩 (1時間)	12:30
13:00				13:00
13:30		一般研究発表 (2時間)	インタラクティブ セッション (2時間)	13:30
14:00			一般研究発表 (2時間)	14:00
14:30	各種委員会 (1時間)			14:30
15:00		休憩・移動(30分)		15:00
15:30	理事会 (1時間)		休憩(15分)	15:30
16:00		学会企画シンポジウム (最大2.5時間)	自主企画課題研究発表 (2時間)	16:00
16:30	顧問・理事・評議 員会合同会議 (1時間)			16:30
17:00				17:00
17:30				17:30
18:00		移動(15分)	実行委員会・企画委員会 合同会議 (1時間)	18:00
18:30				18:30
19:00	若手の会 (2時間)	懇親会(18:15～) (2時間)		19:00
19:30				19:30
20:00				20:00

企業展示(2日間を通して終日)

3. 会場：広島大学（東広島キャンパス：教育学研究科、サタケメモリアルホール、学生会館）
（〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1）

・アクセス方法

J R 西条駅前からバス「広島大学」行に乗り、「広大北口」で下車。
（所要時間約 20 分、詳細は下記 URL 参照）
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/access/index.html>

4. 主催：日本科学教育学会、後援：文部科学省（申請中）、広島県教育委員会（申請中）、
東広島市教育委員会（申請中）、広島市教育委員会（申請中）

5. 年会実行委員会：

[委員長] 岩崎秀樹（広島大学）

[委員] 磯崎哲夫、小山正孝、清水欽也、馬場卓也、木下博義、松浦拓也

[連絡先] 〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1

広島大学大学院教育学研究科

岩崎秀樹 E-mail：jsse34@hiroshima-u.ac.jp

6. 内容・募集概要等：詳細が未確定の企画については決定次第、年会ホームページに掲載
します

(1) シンポジウム

テーマ：科学力を育むために ー行政、科学者、産業界、学会の立場からー

趣 旨：今回の学習指導要領では、言語教育と理数教育の充実が中核に据えられている。また、平成 22 年 2 月 1 日発行の文部科学広報（第 123 号）には、平成 22 年度の施策の中で、「独創的創造的人材育成」では SSH の拡大、「将来を支える科学技術人材の育成・確保」では理数好きな子どもの裾野を拡大し才能を伸ばすための取組みとして、理数教育に優れた指導力を有する教員の養成などが挙げられている。このように国レベルで「科学力を育む」ことが取組まれている現状を踏まえ、本学会の役割とは何かについて議論する。

プログラム：

- 1) 基調講演
鈴木 寛 文部科学副大臣
- 2) パネル討論（各パネリストにもお話を頂き、その後会場を交えての討論）
 - ① 科学者の立場＋教育現場の立場
和田昭允（横浜サイエンスフロンティア高等学校常任スーパーアドバイザー）
 - ② 産業界の立場
篠塚勝正（経済同友会科学技術・イノベーション立国委員会委員長、沖電気工業株式会社社長）
 - ③ 学会の立場
北原和夫（本学会顧問、国際基督教大学）
吉田 淳（本学会会長、愛知教育大学）
- 3) 司会
山口悦司（年会企画委員会副委員長、神戸大学）

(2) 招待講演『科学教育研究セミナー』

特定の分野でアクティブに研究を進めている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせて頂く招待講演です。第 34 回年回では、2009 年度日本科学論文教育学会論文賞受賞者の鈴木栄幸氏（茨城大学）にご講演を頂く予定です。

(3) 学会企画課題研究発表

① テーマ：行政から見たE S D

趣 旨：E S Dには学校などの教育機関、N P O、国・都道府県・市区町村といった行政機関など様々な主体が関与する。とりわけ市区町村は住民の生活に直接関与し、また教育や環境保全などの「現場」にもっとも近い行政であることから、地域のE S D推進の要となっている。現在、各地の先進的市区町村において、「持続可能な開発（社会）のための教育（E S D）」の促進に資する智恵と工夫が蓄積されつつある。その中には、全国に広めていくべきものが多数有り、本セッションではそのような自治体の「智恵袋」から、その一端を披露していただき、フロアの方々とその智恵を活かす方法、体制について議論したい。

オーガナイザー：荻原 彰（三重大学）、加藤 浩（放送大学）

登壇者：自治体のE S D担当者（北九州市、長野市、東京都板橋区）、環境市民（N P O）の方（以上、調整中）

指定討論者：荻原 彰（三重大学）

司 会：加藤 浩（放送大学）

② テーマ：科学教育における統計的思考の育成

趣 旨：「知識基盤社会」においては、現象から特徴を抽出し、新しい知を生み出す基として、不確実な事象を集散的にみることによって特徴をとらえたり、また、社会事象をアンケートなどで科学的に分析したり判断したりすることが重要とされている。そこで、統計的探究の意義やプロセスを理解し、活用することが必要となり、統計的思考力に注目が集まっている。これらの状況を反映して、新学習指導要領の小中高校の算数・数学においては、一貫して統計的思考力の育成に力をいれ、さらに、理科や社会や総合的な学習の時間などでも統計が活用され、教科「情報」の中でも、統計の指導が行われている。また、企業を対象に行われたアンケート調査結果でも、数学の中で最も知ってほしい知識の1つに「統計」が挙げられている。社会に出てからのニーズは確実に増している。本課題研究では、この「科学教育研究」第35巻の特集の告示文の背景を踏まえ、科学教育という観点で統計的思考の育成について、統計教育の歴史的背景、科学教育全体の課程編成、企業など人材育成、そして、学校現場での実践などの観点から「統計的思考の育成」の方向性を議論する。

オーガナイザー：垣花京子（筑波学院大学）

登壇者（予定）：木村捨雄（鳴門教育大学・沖縄国際大学）、大高 泉（筑波大学）、西村圭一（国立教育政策研究所）、西仲則博（奈良教育大学附属中学校）、企業の方または統計の専門家の方（以上、調整中）

(4) 実行委員会企画課題研究発表

テーマ：科学技術リテラシーと新しい学習指導要領

趣 旨：近年、科学的リテラシーあるいは科学技術リテラシー育成の在り方の論議や具体的な実践が行われている。そこでは、科学的あるいは科学技術リテラシーとは何か、新しい学習指導要領との関係はどうあるべきか、理科や算数・数学の授業を通してどのようにそれを育成するか、などが中心に議論されている。ところで、リテラシーそのものは、言語力あるいは教養の系譜を持っている。そこで、この課題研究では、新しい学習指導要領を視野に入れ、少し視点を変えて、自然科学だけではなく、人文・社会科学をも含めたすべての科学を支えるリテラシーの育成について、具体的実践研究を基盤に議論する。

オーガナイザー：猿田祐嗣（国立教育政策研究所）

登壇者：広島大学附属福山中・高等学校：竹盛浩二（副校長）、山下雅文（理科）、服部裕一郎（数学）

指定討論者：小川正賢（東京理科大学）、長尾篤志（国立教育政策研究所）

(5) 自主企画課題研究発表（審査中）

以下に応募された企画について、テーマとオーガナイザーを示します。これらの企画の受理

については、年会企画委員会で審査中です。

- ① 科学教育からみたエネルギー・環境教育：小田泰史（蒲郡市立形原北小学校）、平賀伸夫（三重大学）
- ② 初等・中等教育における統計的思考力を育成する実践研究と今後の展開へ向けて（仮）：松元新一郎（静岡大学）
- ③ 数学的モデリングの実践授業を通じて、どんな力をどのように育てているか：松寄昭雄（鳴門教育大学）
- ④ これからの学校教育における説明・証明研究の展望Ⅲ：茅野公穂（信州大学）
- ⑤ マンガという教育メディアⅡ：竹中真希子（大分大学）
- ⑥ 科学技術リテラシーの発展に向けた技術教育と理数教育の関係：谷田親彦（広島大学）
- ⑦ 我が国のこれからの卓越性の科学教育と教育課程編成－科学がわかる教育”から“科学を創る教育”－：吉岡亮衛（国立教育政策研究所）
- ⑧ インタラクション・デザイン・学習Ⅱ：稲垣成哲（神戸大学）
- ⑨ 持続可能な社会とサイエンス&ヒューマン・コミュニケーション：野上智行（社団法人国立大学協会／前・神戸大学）
- ⑩ 社会の中の科学・技術とその教育を考える－放射性廃棄物の処理問題での合意形成に焦点を当てて－：熊野善介（静岡大学）
- ⑪ 「科学教育と科学論」再考：科学史・STS・科学リテラシー：河野俊哉（暁星学園・東京大学大学院、法政大学・聖心女子大学・青山学院女子短期大学）、北田 薫（北海道大学大学院・札幌龍谷学園高等学校）
- ⑫ これからの統計教育の方向性(4)：「活用」に向けた授業の具体像と評価について：青山和裕（愛知教育大学）
- ⑬ 数学教育におけるテクノロジー活用の将来像の考察－数学的活動から創造性の育成をめざして－：垣花京子（筑波学院大学）、渡辺 信（東海大学）
- ⑭ 科学リテラシーの涵養に資する科学系博物館の学習プログラムの開発と体系化：小川義和（国立科学博物館）

(6) 一般研究発表

発表時間は1件につき20分（発表15分、質疑5分）を予定しています。

- ・発表申込みと原稿受付期間：2010年5月24日（月）～6月13日（日）
- ・原稿締切：2010年6月13日（日）
- ・原稿提出先：年会用WEB
- ・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員でなければなりません。筆頭発表者での発表件数は1件です。
- ・執筆要綱：A4版2ページ、詳細は申込み開始日までに年会Webサイト
(<http://certcms.shinshu-u.ac.jp/jsseam/modules/note3/>) に掲載します。

(7) インタラクティブセッション

ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。例えば、

- アイディアは新しいが検証の途上である研究
- 新規性に欠けるが教育実践上有効性が高い研究
- 具体物に接した方が理解しやすい身の回りのものを活用した実験方法
- じっくりと実演した方が理解しやすい自作による実験器具
- シミュレーション、分析、記録などのコンピュータソフトウェアなど、

発表や実演には、ポスターを貼るパネルと長テーブルを用意します。この範囲内で、発表や実演をしながら語り合うこともできます。また、セッションは60分程度の時間を予定しています。

- ・発表申込みと原稿受付期間：2010年5月24日（日）～6月13日（日）
- ・原稿締切：2010年6月13日（日）
- ・申込みおよび原稿提出先：jsse-interactive@freeml.com（e-mailにて手続きしてください）
- ・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員でなければなりません。筆頭発表者での発表件数は1件です。
- ・原稿の形式は、一般研究発表に準じます。年会論文集執筆にあたっての留意事項をお読み

下さい。

- ・原稿を提出する際には、メールに、テーマ名、担当者名、概要、連絡先をお知らせ下さい。また、インターネット利用の有無、電源利用の有無、その他の希望についても明記してください。

(8) 若手の会

「若手の会」の幹事を中心に企画を計画中です。詳しい内容等については本レター内の「若手の会」の項をご参照ください。

(9) その他の企画

総会、懇親会、各種委員会・会合等が予定されています。なお、第34回年会は、例年の年会に比べて日程が短いため、ワークショップはおこなわないこととしました。

7. 発表申込先・申込期限、原稿提出先・提出期限

企画	原稿提出先
学会企画シンポジウム	年会企画委員会担当へ提出
学会企画課題研究	各オーガナイザーが原稿を取りまとめ年会企画委員会担当に提出
年会実行委員会企画	年会実行委員会

企画	申込期限	申込先・原稿提出先
自主企画課題研究	受付終了	各オーガナイザーが原稿を取りまとめ年会企画委員会担当に提出
一般研究発表	5月24日(月) ～6月13日(日)	年会用WEB:受付開始日に公開します。年会サイト(http://certcms.shinshu-u.ac.jp/jsseam/modules/note3/)からリンクできるようにします
インタラクティブセッション	5月24日(月) ～6月13日(日)	jsse-interactive@freeml.com (メールにて申込および原稿提出)

[原稿提出期限] 企画に関わらず6月13日(日)を最終期限とします。

8. 参加申込・参加費

- (1) 年会用WEBによる参加申込期間：5月24日(月)～8月21日(土) (これ以降は当日受付とします)
- (2) 学会員参加費：一般会員：7,000円(年会論文集を含む)、学生会員：5,000円(年会論文集を含む)、追加の年会論文集：1冊3,500円
★年会費の早期払込み割引：学会員のみ7月30日(金)までに払込む場合1,000円を割引きます。
- (3) 非会員参加費：一般非会員：4,000円(年会論文集無し)、学生非会員：2,500円(年会論文集無し)
- (4) 懇親会参加費：5,500円、9月10日(土)シンポジウム終了後
- (5) 払込み方法

ゆうちょ銀行または郵便局備え付けの青色の払込用紙を用いて送金してください。このとき、一人につき一枚の払込用紙を用い、通信欄に送金内訳(参加費、懇親会費、追加論文集代など)を明記してください。

※参加費等の送金は、ゆうちょ銀行(郵便局)からの払込みに限らせていただきます。

口座番号：01370-2-48345

口座名称：日本科学教育学会第34回年会実行委員会

- (6) 払込み期限：8月23日(月)まで。これ以降は振込まず、学会当日会場にてお支払いください。

9. その他

最新情報は年会ホームページに掲載します。こまめに確認をお願いします。

・第34回年会ホームページ：<http://certcms.shinshu-u.ac.jp/jsseam/modules/note3/>

若手の会

若手の会：9月10日（金）の夜に、西条で集いましょう

昨年と同じく、年会の前日の夜に、若手同士のネットワークづくりを目的として、お互いの興味・関心や今後の展望を語るという会合を企画しました。

今年は、9月10日（金）です。全国の科学教育関係者が集まる年に1度の機会を利用して、お互いの興味・関心や今後の展望を語り合しましょう。

年齢制限はございません。「若手」とは、あくまでも「自称の若手」です。「自分はまだまだ元気だ」「自分はバリバリ活躍するぞ」という方々が、この会合の対象者です。

学会の非会員の方も参加できます。年会に参加予定の方、どうぞご参加ください。

若手の会に参加したら、翌日からの年会がさらにエンジョイできるはずです。

多数のみなさまの参加をお待ちしています。

■ 月 日：2010年9月10日（金）（年会の前日です）

■ 時 間：18時開始～20時終了予定

■ 場 所：JR西条駅周辺（予定）

■ 会 費：7,000円（予定）

■ 参加資格：

制限はございません。自称「若手」であれば、どなたでも参加できます。また、学会の非会員の方も参加できます。

■ 参加申込：

事前申込制です。なお、下記の点にご注意ください。

(1) 会場手配などの都合上、下記の申込期間以外の受付は、原則としていたしません。

(2) 申込後のキャンセルは、8月20日（金）までとします。

(3) 8月20日以降のキャンセルや当日欠席の場合、会費を請求させて頂く場合があります。

■ 申込期間：2010年5月24日（月）～7月31日（土）

■ 申込方法：

下記の申込フォームに記入の上、kaoyama@aecc.aichi-edu.ac.jpまでお申し込みください。

-----（ここから）

【申込フォーム】

氏名：

氏名ふりがな：

所属：

メールアドレス：

申込先：kaoyama@aecc.aichi-edu.ac.jp

-----（ここまで）

■ 第34回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕（愛知教育大学）kaoyama@aecc.aichi-edu.ac.jp

松浦拓也（広島大学）takuyam@hiroshima-u.ac.jp

三宅志穂（神戸女学院大学）miyake@mail.kobe-c.ac.jp

山口悦司（宮崎大学）etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp

平成 21 年度 第 4 回研究会・北陸・甲信越支部のご案内

日本科学教育学会北陸・甲信越支部では、平成 21 年度第 4 回日本科学教育学会研究会・北陸・甲信越支部を以下のテーマと日程で行います。皆さまのご参加をお待ちいたしております。

- [テーマ] 科学教育に関わる教師の指導力向上の方策を探る
[主 催] 日本科学教育学会、日本科学教育学会北陸・甲信越支部、上越教育大学
[後 援] 新潟県教育委員会（予定）、上越市教育委員会（予定）、妙高市教育委員会（予定）、糸魚川市教育委員会（予定）
[日 時] 2010 年 5 月 29 日（土）10:00～16:00
[会 場] 上越教育大学
[対 象] 会員、教員、学生、社会人
[参加費] 無料
（発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。）

申込締め切り：2010 年 4 月 9 日（金）→ 15 日（金）（※変更になりました。）
申込時には、発表者名、所属、発表タイトル、連絡先、使用機器をご連絡ください。
発表原稿の締め切り：2010 年 4 月 23 日（金）
申込及び発表原稿送付（連絡先）：上越教育大学
Tel：025-521-3440 E-Mail: kubota@juen.ac.jp
〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1 番地
上越教育大学 久保田善彦

平成 21 年度 第 6 回研究会・東海支部会のご案内

現在、教育界では、ゆとり教育への反動とも言える学力向上論が主流となり、新学習指導要領もその文脈でとらえられることが多くなっています。しかし、一方で、ESD（持続可能な社会のための教育）、メディア・リテラシーなど新しい課題に対応した科学教育、伝統的な学力観の枠組みで解釈することが難しい現代的課題の解決のための科学教育も求められています。そこで「新時代に対応した科学教育」をキーワードとした研究会を開催し、これからの科学教育のあり方について議論したいと思います。つきましては、下記の要領で研究発表を募集しますので、多数の方々の申込をお待ちしております。なおテーマに関する発表以外にも科学教育全般に関する研究発表も歓迎いたします。

- [テーマ] 新時代に対応した科学教育
[主 催] 日本科学教育学会、日本科学教育学会東海支部
[共 催] 三重大学教育学部
[後 援] 三重県教育委員会（予定）、津市教育委員会（予定）
[日 時] 2010 年 6 月 26 日（土）10:00～16:00
[会 場] 三重大学総合研究棟 I 1 階 メディアホール
[対 象] 会員、小学校・中学校・高等学校・大学の教員、学生、社会人
[参加費] 無料（会員の有無、発表の有無にかかわらずご参加いただけます。）

申込締め切り：2010 年 4 月 30 日（金）
申込時には、発表者名、所属、発表タイトル、連絡先、使用機器をご連絡ください。
発表原稿の締め切り：2010 年 5 月 26 日（木）
申込及び発表原稿送付先（連絡先）：三重大学教育学部理科教育講座 荻原 彰
Tel：059-231-9325 E-Mail: ogi@edu.mie-u.ac.jp
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

平成 21 年度 第 3 回研究会・南関東支部会 開催報告

標記の会が、2010 年 2 月 20 日（土）、麻布大学獣医学部棟 7 階において開催された。

研究テーマは、「実社会・実生活との関連を重視した科学教育」である。南関東（神奈川県・東京都・千葉県）を中心に、約 50 名の参加があり、16 件の発表申込みのうち 1 件が取消しとなったため、当日は計 15 件の発表がなされた。

開会式の後、発表数の関係により A・B の 2 会場に分かれて、研究発表（午前の部）がはじまった。A 会場では、藤田剛志（千葉大学）座長もとで、五島政一（国立教育政策研究所）「実社会・実生活との関連を重視した総合的な理科教育「アースシステム教育」」など 4 件の発表がなされた。B 会場では、岩本 泰（東海大学）座長のもとで、小松幸廣（国立教育政策研究所）・松田知子（相模原市教育委員会）「教材イラストの利用形態と期待される効果」など 4 件の発表がなされた。

昼食時には、会場脇の眺望の良いラウンジにおいて、支部懇談会を開催した。

研究発表（午後の部）は、A 会場では、中澤 剛（群馬大学）座長のもとで、岡本弥彦（麻布大学）ほか「自然のパターン」の把握を取り入れた環境学習の工夫」など 4 件の発表がなされた。B 会場では、坪田幸政（桜美林大学）座長のもとで、豊田光乃（かえつ有明中・高等学校）・森本信也（横浜国立大学教育人間科学部）「高校物理における思考力・判断力・表現力の育成を志向した理科授業とその評価規準の作成」など 3 件の発表がなされた。

小休憩の後、太田光明（麻布大学獣医学部）教授による特別講演「アニマルセラピーの科学的根拠と小学校における実践」が行われた。

最後に閉会式を行い、プログラムが無事終了した。

これらのなかで、活発な質疑応答や意見交換が行われ、近隣の学校関係者の参加も多数あったことも含めて、たいへん実りの多い研究会・支部会であった。

最後に、開催にご協力いただいた麻布大学の学生諸氏ならびに関係者の皆様と、事業を後援していただいた相模原市教育委員会に、深く感謝申し上げます。

（以上、敬称略。麻布大学 岡本弥彦・福井智紀）

編集理事会だより

平成 22 年 3 月 13 日（土）11:00～14:00、平成 21 年度第 2 回編集理事会がコクヨショールーム品川本館会議室において開催されました。

まず、平成 21 年度第 1 回編集理事会議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況の報告が行われました。新規投稿論文（2010.1.29～2010.3.3）が 6 編（和文 5 編、英文 1 編）、査読中論文 23 編（第 1 回査読中 5 編、再投稿待ち 5 編、第 2 回査読中 5 編、査読員選定中 1 編、1 回目判定中 1 編、総合判定中 6 編）、掲載決定論文が 11 編（研究論文 10 編、プラザ 1 編（34-1: 5 編、34-2: 6 編））です。なお、これらの数字には特集（第 34 巻第 2 号）の論文数も含まれています。

続いて、以下の 3 点について審議と報告が行われました。

(1) 第 35 巻特集のテーマと担当者について、垣花編集部会長より報告の後、意見交換が行われました。テーマは統計教育に関わるものであり、科学教育研究にふさわしい内容を求めることから、科学教育における統計的思考力育成に関わる理論や実践という方向で今後編集部において検討を進めることでも了承されました。なお、この特集に関わる論文募集案内については内容が確定次第、学会 Web サイト等で公表していく予定です。

(2) 科学教育研究の査読システムの改善について、問題提起と意見交換が行われました。まず中山担当理事・土田担当理事より、現行の査読システムの構造上の問題がいくつか報告され、これについては今後編集事務局と連携して解決にあたることでも了承されました。また、論文査読に関わって、投稿論文の査読者の選定にあたって特定の分野に関わる投稿が重なった場合に特定の担当編集委員や査読者に負担が集中してしまうこと、論文採択率が低下してきているこ

となどの意見が出されました。議論の結果、これらの点については、査読規程の改訂も見据えて継続審議にすることになりました。

(3) 第34巻第2号の特集について、鈴木編集部会長より編集状況の報告がなされました。投稿論文数が21編、掲載決定論文が9編(学術論文8編、資料1編)、査読中論文が1編(学術論文1編)、招待論文が2編となっています(3月8日現在)。この特集については2010年3月末にすべての査読作業を終え、2010年6月中旬に発行予定です。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況 (2010年1月28日現在)

	新規投稿 論文数(篇) 審査中(篇)				掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可 論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2009年 4月		1	16	4	4 (33-2)				1	
5月	6		17	4	1 (33-3)	1 (33-3)			3	
6月	6		22	1	3 (33-3)	2 (33-3)			1	
7月	1		14		4 (33-3)				5	
8月	6	1	19	1	1 (33-3)					
9月	6		18		3 (33-4)				3	1
10月	24		34		4 (33-4)				5	
11月	6	1	30	1					9	
12月	3		25	1	4 (34-1) 1 (34-2)				4	
2010年 1月	6		26	1	1 (34-1) 1 (34-2)				1	2
2月	5	1	24	2	1 (34-1) 4 (34-2)				2	
3月			22	2	1 (34-2)				1	

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第197号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会webサイトにある「お問い合わせ」(webメール)をご利用のうえ、お知らせください。

- 担当理事：東原義訓(信州大) 荻原 彰(三重大)
 委 員：加藤久恵(兵庫教育大) 二宮裕之(埼玉大) 土田 理(鹿児島大学)
 藤岡達也(上越教育大) 渡辺政隆(科学技術振興機構)
 小倉 康(国立教育政策研) 久保田善彦(上越教育大)
 幹 事：福井智紀(麻布大) 茅野公穗(信州大)

科学教育研究レター 編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL: <http://www.jsse.jp>

- 事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内
 □事務支局(入退会・会費・学会誌発送関連) TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662
 E-mail: jsse@nacos.com
 中西印刷(株) 学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
 □編集事務局(論文投稿・査読編集) TEL: 075-415-3155 FAX: 075-417-2050
 E-mail: jsse-hen@nacos.com
 中西印刷(株) 学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座: 00170-6-85183 日本科学教育学会
 銀行口座: みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会